

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	立命館大学衣笠キャンパス大学院施設	階数	地上3F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 0.0	評価の実施日	2013年12月30日
敷地面積	2,420 m <sup>2</sup>	作成者	山本勝彦
建築面積	1,298 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,716 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

■建設 ■修繕・更新・解体 □通用 □オンサイト □オフサイト

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	京都の建築文化を取り込み、周辺環境・キャンパスと調和する建築・環境デザイン。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
①室内会話規制、②横格子、軒、庇、ハイサイドライト、③キャンパス全体禁煙。	①窓・吹抜による広さ感、②節水型器具、③通信方法多様化。	①山ろく修景地区許可・軒・横格子ルーバーの採用。②視線を遮らない樹木配置。③敷地周辺に庭を設置、地域住民が利用可能。④2階、3階衣笠山に面するラウンジスペースを設置、開放的な空間を作り出す。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
①太陽光発電システムの採用。②全ての居室には突出し窓を設置、自然採光、自然換気を配慮。③2F、3Fの窓にライトシェルフを設ける。	①省水型機器の採用、②リサイクル材 (高炉セメント) 使用、③不活性ガス消化剤採用。	①雨水排水負荷低減、②屋外照明の配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される